

(アメリカン・ジャッジズ・アソシエーション、アメリカン・ジャッジズ・ファウンデーションのホーム・ページ <http://aja.ncsc.dni.us/domviol/booklet.html> から、家庭裁判所の裁判官にドメスティック・バイオレンスを知ってもらうための冊子部分を抜粋して翻訳)

## DVと法廷 問題を理解し、被害者を知るために

### DVを止めさせ、被害者が生きのびるために裁判官にできることはありますか？

1. 被害者の言うことに注意深く耳を傾けること。裁判官の行動は、被害者が置かれた状況とその背後にあるできごとに裁判官が関心を持っていることを示します。
2. DVを止めさせるための最初のステップは、まずDVの存在を認めることです。DVの被害者やその周りの人たちは、DVに対処するため、DVを否定したり、合理化したり、過小評価したりします。裁判所は、被害者の安全を保障するために必要なすべての方法をとらなければなりません。裁判官は、被害者が安全に快適に暮らすことに役立つすべての方法を利用すべきなのです。  
裁判官は、被害者が手続きに圧倒されて、裁判所が命じる矯正方法に従えないことがあることを認識する必要があります。
3. 裁判官は被害者に信頼されなければなりません。暴力の影響のひとつに、他人を信頼するという被害者の能力を損なうということがあります。判断ミスが命に関わるという環境で暮らすことに慣れた被害者にとって、法廷で誤った判断をすることは許されません。裁判所は、被害者が裁判所と司法組織を信頼できるよう積極的なアプローチをしなければなりません。被害者に理解ある弁護士をつけ、選択肢を説明することが許される管轄区域ではそのようにしてください。
4. 被害者は、法的問題を頭では理解していても、その感情には激しい揺れがあります。被害者にとって、とり得る選択肢を理解することが困難なのはそのためです。裁判官はとり得る選択肢について時間をかけて説明し、被害者自身にそれらの選択肢を繰り返させて、被害者がそれらを理解したことを確認しなければなりません。
5. 被害者は面倒な問題が起こるのを回避しようとして、実際に起こっていることに納得できないことがあっても、法廷では非常に落ち着いて見えることがあります。裁判官は、時間をかけて具体的事実について質問する必要があります。被害者は自分が責めを負うべきでないできごとについても、その責任を受け入れる傾向があるかもしれません。同様の理由で、不正確な記録を受け入れることも頻繁にあるでしょう。裁判

官は、裁判所の記録が明確で完全なものであることを確認する必要があります。そのためには、被害者がどんな異議であってもそれを恐れずに発言できる機会を与えること、必要であれば、加害者がいない場所でその機会を与えなければなりません。裁判官は危険なまたは不公平な和解や子どもの監護権、面接権に関する命令を回避するよう十分に注意しなければなりません。

6. 法廷の雰囲気は被害者を威嚇するものであってはなりません。被害者が何年にもわたって威嚇され続けてきたことは忘れられやすいことです。裁判官は法律が許す裁量権を十分に行使し、事件に関係するすべての法律を執行できるのです。裁判官はまた、DVは絶対に許さないという法廷の雰囲気を促進することができます。たとえば、裁判官は法廷官吏に対し、当事者や関係する家族や友人が、休廷の間に互いに妨害的な行為をすることを許さないよう指示することができます。家族による騒々しい訪問が、（被害者を）操ったり、強制したりするものであったり、不適切なものであることもあります。このようなことが起きるのを許すことは、裁判所と被害者の両方に対する挑戦のメッセージを送ることを許すになりますし、裁判所の権限は被告に対して何の影響も与えることはできないという印象を作出します。

## 被害者を責めないこと

DVの被害者は、DVにおける力関係を知らない人には理解できないような行動をとることがあります。被害者は自分の行動を理解していなかったり、自分を守るために暴力があったことを否定するかもしれません。

被害者に対する加害者の支配は、被害者のほんの小さな決断にさえも影響することができます。DVは、行為者が犯す犯罪であり、被害者が犯すものではありません。加害者は自分の暴力的行為について全責任を負わなければなりません。したがって（加害者と被害者に対する）相互的な抑制命令を出すことは不適切です。

暴力は、時間の経過とともにその頻度と程度が増していきます。介入されることなしに、それが終わることはありません。

調査によれば、短期間の身柄拘束後、裁判所が命じたカウンセリングを受ければ、暴力の循環を断つことができる場合があるということです。カウンセリングは、暴力的な場面を作らないことを目的とする特殊な性質のものでなければなりません。しかし、非常に優れたカウンセリングさえも、加害者が暴力行為を止めることを保証するものではありません。

DVの被害者が他の人々の行動を客観的にまたは中立的に見る能力を失ってしまうことは頻繁に起こります。被害者は他人を信頼する能力を失ってしまうのです。ですから、彼または彼女は孤立感を味わうことになります。

多くの人々が、加害者がなんらかの形で暴力を招いたとか、暴力を肯定したとか、暴力からなんらかの満足を得ているとさえ考えます。暴力を受けることが好きな被害者は一人としていません。被害者はわたしたちと同じように、愛情と信頼と満足感ある人間関係を求めています。

調査によると、すべての暴力事件の半数において、加害者は飲酒または薬物の影響下にあるということです。飲酒や薬物は暴力の原因とはなりません、暴力の口実となることがよくあります。

加害者はすべて同じではありません。ある者は他の犯罪も犯します。彼らは、長い間違法行為と暴力的行為を行ってきた場合があります。またある者は、適切な社会的性役割や怒りと暴力を抑制することを学ぶことを援助する心理教育的育プログラムや、他人との関係の中で暴力をなくすための最新のテクニックによって改善することもあります。

国立刑事司法統計院の資料によれば、報告されたDV事件の70%が、被害者が加害者と別れた後に起きたということです。1976年から1984年の間に、パートナーにより殺された16歳以上の人々が3万8,648人いますが、より多くの人々が以前に暴力を振っていた男性パートナーによって殺されており、女性パートナーから殺された男性は39%でした。

**どんな人も安全とは限りません。そして、誰もが苦しみます。**

DVは、年齢、社会的・経済的地位、宗教、人種、性別、教育程度に関係なく起こるものです。貧困あるいは無学な人がDVの被害者になるというのは神話にすぎません。多くの調査が、裕福な地区において夫婦間のDVの件数が多いことを示しています。もちろん、貧しい被害者は、必要とする援助が受けられないという深刻な問題を抱えています。裕福な被害者も社会的烙印を押されたくないとか、経済的プレッシャーが大きいとか、配偶者の社会的地位が高いあるいは権力を持っているために、同じくらい絶望的な状態に陥っていることがあります。レズビアンやゲイのカップルでは、性的傾向に対する差別がより大きな障害になっていることがあります。

**すべての人が苦しみます。**

暴言や暴力の現場やその結果傷ついた親や家を見ることは、子どもたちを荒廃させます。恐怖、怒り、孤立感、自尊心や信頼感の喪失は、DVを目撃した子どもたちに共通しています。女性が虐待されている家庭では、虐待者である親によって子どもも虐待されていることがよくあります。暴力的な家庭においては、子どもが近親相姦の被害にあっていることが頻繁にあり、不幸なことに子どもたちが家庭を去った後でもその影響は止まないという事実が徐々に明らかになってきているのです。子どもたちは、成長過程における経験をもとに自分の行動を形成します。暴力的家庭で育った子どもたちは、高い確率で、自分自身も暴力の被害者や加害者になってしまうのです。

家族や友人も間接的な被害者となります。被害者の孤立や恐怖は、被害者と親しい人々からも意味のある満足できる人間関係を奪います。加害者は、被害者を傷つけたり支配するために、被害者に近い人を害することがあります。加害者は、子どもやほかの家族、ペット、持ち物や家を傷つけることもあります。

被害者の孤立は被害者を閉じ込めます。加害者は、被害者をその家族から社会的、精神的、物理的に遠ざけることがよくあります。被害者は、親友や家族に会うことを禁じられたり、学校に行ったり、家の外に働きに行くことを禁じられることもよくあります。金銭を手にしたたり、管理することもできません。このように深刻な孤立の中で、加害者は被害者を「洗脳」しますが、被害者が外からそれに反する情報を得ることができないため、被害者は現実を知ることができないのです。

加害者の「保護者」としての振舞が、被害者が健全に過ごすために重要な人や物から加害者を遠ざけます。長い間の孤立によって、被害者は精神的に圧倒され、脅かされ、困惑させられます。被害者が、たとえ新しい異性関係を築いたとしても、加害者の脅しから圧倒的恐怖を受けます。加害者はまた、他者をも危険にさらしたことに對して大きな罪悪感を感じます。同時に、加害者は、新しい関係についても、本当に信頼できるものなのか、それとも以前と同じパターンが繰り返されるのではないかと考えて苦しむのです。

## **暴力を見つけるために**

DVの被害者は混乱した考えや感情を有していることがよくあります。驚くべきことに、多くの被害者は自分が虐待されていることをはっきり認識していません。被害者は、なにかがとても変だと分かっているのに、それが何であるかを適切に識別できないので

す。否定、合理化、過小評価は、すべて、毎日の現実と暴力のひどさに対処する方策です。多くの被害者にとって、自分がDVの被害者だと認識することはとても困難なことなのです。裁判官は、つぎの「物理的虐待尺度と致死性的かどうかの評価」を、肉体的虐待を識別する助けとして利用することができます。

## 肉体的虐待尺度

つぎは、肉体的虐待尺度で、致死性的または傷害の程度の低い順に並んでいます。現在進行している暴力のほとんどが、この順番で進行しますから、それまで深刻な虐待や警察または裁判所の介入がなかったとしても、下記の行為があったことを特定できれば、過去にどのような虐待があったかを推測することができます。加えて、虐待がある程度の危険まで至っていないとしても、それが危険でないとか肉体的な虐待の場合ではないというわけではありません。「小さな虐待」の結果、被害者が深く傷つくこともあります。

裁判官が肉体的虐待尺度を利用する場合、危険の程度について被害者の意見を考慮することが、事案を評価するために役立ちます。

- ・ 言葉による虐待（言葉の暴力）
- ・ 物を投げる、壁を叩く、ペットを投げつける、加害者が出ていくことを許さない、セックスを要求する。
- ・ 押す、突く、掴む、揺する、被害者に向かって物を投げる。
- ・ 手で叩く、腕、足または指をねじる。
- ・ 蹴る、噛む、髪を引っ張る、頭を叩いたり揺すったりする。
- ・ 首を締め付ける、首を締めようとしたり窒息させようとする。
- ・ 殴りつける（壁や床に押しつけたり、蹴る殴るを繰り返す）
- ・ 武器、ナイフ、銃、車、毒などを使って脅す。
- ・ 武器を使って暴行する。
- ・ 性行為の強要

## 致命的かどうかの評価

調査によって、一定の場面が致命的なものかどうかを評価するために重要な要素が見つかっています。しかし、すべての深刻なDVにおける人間関係は、予測を超えたもので、急激に激しくなる潜在性を有するため、致命的かどうかを予測することは困難です。それでも、各事件においてどのくらいの保護が必要かを判断するために、下記の要素のいくつかが存在するという報告を利用することが有用です。

- ・ 暴力が頻繁になってきていること
- ・ 暴力の程度が激しくなっていること
- ・ 飲酒または薬物の乱用
- ・ 子どもに危害を加えるという脅し
- ・ 性的行為の強要または脅しによる性的行為
- ・ 自殺をほのめかすまたは自殺未遂
- ・ 使用できる武器があること
- ・ 被害者または加害者に精神的障害があること
- ・ 被害者と加害者の距離が近いこと
- ・ 加害者が子どもとの接触を必要としているまたはこれを支配していること
- ・ 生活にストレスがあること
- ・ 裁判所の命令や司法システムに対する反抗
- ・ 新たな異性関係の存在

### さまざまな種類の精神的暴力

社会的・性的偏見： 被害者が苦しむさまざまな形の精神的暴力に加えて、社会は被害者のことを無力で、一段低い人間で、精神的に未熟で、非合理的であると考えます。このことは、被害者は暴力的場面や暴力的関係から逃れようとすると同時に、これを阻む社会的、経済的、文化的プレッシャーとも戦わなくてはならないことを意味します。わたしたちは、肉体的あるいは性的暴力に対しては大きな注意を払いますが、これらの偏見が虐待が繰り返される土壌を作っていることが頻繁にあるのです。

侮辱： 個人的、精神的、性的または職業的イメージを傷つけるような継続的ないし極端な批判のことです。侮辱は、人の自尊心を大きく傷つけ、最終的に被害者を精神的に無力にしてしまいます。

拒絶： 自分は無価値であるという感情を起こさせる直接的または間接的な発言のことです。拒絶は、虐待者に協力しないことへの罰として使われることがあります。虐待者は、自分の被害者に対する怒りを正当化するために拒絶を利用することがあります。

精神的脅しおよび非難： 被害者に対し精神的または肉体的な害を与えるための間接的または直接的発言のことです。被害者の行動、態度または精神状態について嘘を言うことを含みます。

精神的脅迫： 被害者の恐怖心、罪悪感、不安感または困惑状態を利用して、被害

者が虐待者に自分を支配する力を与えるような立場に追いやるための発言または行動のことです。

凶人に仕立てあげること： この行為は現実を歪曲し、正直なコミュニケーションの可能性を破壊します。「時計仕掛けのオレンジ」という古典的映画で描写されるように、これは混乱と不安を増大させるためには非常に有効な方法です。

所有的または加罰的行為： 他人を自分の所有物または精神的延長であると考えます。嫉妬、自由の制限、孤立させること、他人の能力や成長の機会を否定することを含みます。多くの場合、羞恥心や罪悪感を利用して、被害者が得るべき支持や保護を邪魔することを含みます。

非現実的な期待に基づく関係の構築： これには、虐待者が、被害者にとって何がベストか自分が知っていると思い込むことが含まれます。自分がどんな人間であるかを自分自身で発見する機会を与えないことは、互いに利益ある現実的な人間関係を作る機会を阻害します。

子どもに危害を加えるまたは子どもを連れ去るという脅し： 虐待される関係に戻ってしまう理由としてもっとも多く挙げられる理由の1つは、虐待者が子どもを連れ去るという脅しを実行するのではないかという恐怖心です。調査によれば、子どもの監護権が争われた事案の約70%において、加害者は被害者が一人で監護権を持つに相応しくないと、公的機関を説得することに成功しているということです。

経済的脅迫： 虐待者が被害者に金銭を触らせず、被害者を経済的に支配していることもよくあります。経済的虐待には、被害者が収入を得ることを禁じるものから、教育を受けさせなかったり、仕事の機会を奪うものなどがあります。被害者が仕事を持っている場合は、加害者が収入の手段を破壊すると脅すことがあります。

## バタード・ウィメン・シンドローム

バタード・ウィメン・シンドローム（BWS）とは、心理的症状の総称で、PTSDの一種とも言われており、訓練された精神衛生のプロにより診断されます。

BWSにかかった被害者は、彼女を助けようとする人々をさえも混乱させるような行動をすることがあります。したがって、被害者は虐待が止んでほしいと願っているにもかかわらず、法的システムに協力することが非常に困難になります。

症状： BWSは、正常人が家族内暴力のようなトラウマに繰り返しさらされることによって起こりうる心理的反応です。その症状は、脅しに対して心と体を防衛する準備に役立つ少なくとも3種類の症状を含んでいます。

「戦う」反応状態： 「戦う」反応状態にあるとき、体と心は、暴力の可能性のある事象に対し過度に警戒することによって危険に対処する準備するので、その結果として、過度に驚くという反応をします。自律神経が働いて、自己防衛というたったひとつの機能に集中します。そのため、集中力が阻害され、通常、生理的反応は高度の不安と関連します。深刻な場合は、恐怖心とパニック障害が存在し、結果として恐怖症になることもあります。イライラしたり、泣いたりすることがこの段階の典型的症状です。

「逃避」反応状態： 「逃避」反応状態が「戦う」反応状態と交互に起こることがしばしばあります。危険から安全に逃れることができれば、ほとんどの人はそうするでしょう。実際に逃げるのが不可能あるいは不可能であると認識される状況においては、精神的逃避が起こります。これが、回避または精神的無気力の段階で、否定、過小評価、合理化、分離などが、脅迫や暴力の存在から心理的に逃れる手段として無意識的に使われます。

認知能力および記憶喪失： BWSの主な影響の三番目は、認知および記憶に対するものです。被害者は虐待についての記憶をいきなり思い出したり、心理的記憶喪失を起こすなどして、常に重要な詳細や出来事を覚えているとは限りません。被害者は以前の虐待の記憶がフラッシュバックのようにいきなり起こって集中できず、自分の考えをきちんと論理的に追うことができないことがあります。観察者がすぐに気付くことができない苦しい出来事や思い出、繰り返し起こる悪夢やその他の連想に直面した被害者が、自らを分離させてしまうこともあります。

## その他の形の暴力

性的暴力 - 肉体的暴力および精神的暴力にはしばしば性的暴力が伴います。被害者がさらに危害を加えるという脅しにより強制されたあるいは実際に肉体的暴力が伴う性的暴力を描写することは大変困難です。ほとんどの場合、被害者は肉体的に性行為を行えないような状態のとき、たとえば出産や手術直後、病氣中などに、虐待者に脅されてその要求に従って性行為を行います。被害者がそれによって感じる羞恥心が、彼女をさらに虐待者のもとに引き止めるのです。

子どもの虐待 - 調査によれば、子どもがいる家庭で虐待が起こる場合、その約半数においてなんらかの形で子どもの肉体的ないし性的虐待が行われているということです。

通常、子どもを虐待するのは、虐待者であるパートナーです。ほとんどの場合、DVを目撃した子どもは、精神的影響を受け、子どもたち自身も暴力にかかわる可能性が高くなります。調査によると暴力は生まれる前から子どもに影響を与えます。妊娠中の暴力は、流産、胎児への傷害、早産につながります。特に暴力的関係の力学に無知なソーシャルサービスが介入した場合、子どもの存在は危険な状態をより致命的なものにします。虐待者であるパートナーまたは子どもを家庭から離すと暴力が止まらずにかえって増長することがあります。援助のためには、プロを加えるのが有効なことがしばしばあります。この時点におけるさらなる保護と介入が重要です。

老人虐待 - 調査によると年をとった被害者は、他人である看護者からより、虐待的パートナーや面倒をみている子どもから虐待されることのほうが多いということです。家族内暴力が放置されたまま止むことはありません。家族内暴力は公衆衛生にかかわる問題であり、すべての公的機関がその存在を認識して対処することを援助する必要があります。

相互的暴力 - 自己防衛と相互的な暴力により被害者も暴力を振るう場合とを区別するのが困難なことがしばしばあります。逮捕された加害者は子どもの元に戻るため罪を認めることがあります。自己防衛または他者を防衛するために反撃する被害者も、暴力の被害者として取り扱われるべきです。

交際中の暴力 - 交際中の暴力とは、カップルが結婚したり同棲する前に起こる言葉の暴力、肉体的暴力、精神的暴力または性的暴力のことをいいます。交際の長さや安定度は関係ありません。たった1度のデートで起ころうと長い間続こうと、行為は交際中の暴力として分類されます。交際中の性的暴力(デート・レイプ)はもっとも一般的注目を集めていますが、研究者は、暴力的な交際中には殺人を含めたあらゆる暴力的行動が起こることに注目しています

## 挨拶

この教育的冊子は、裁判官に対し、DVの被害者に関する重要な情報を提供するものです。この冊子は、恐怖し、困惑し、威嚇された状態にある出廷した被害者に対する思いやりと理解の必要性を強調するものです。この冊子は、裁判官がDVは絶対に許さないという態度を促進し、被害者が必要としているものと被害者の安全に敏感な法廷を作ることを助けるものです。

アメリカン・ジャッジ・アソシエーション・アンド・ファウンデーションは、ドメスティック・バイオレンス・インスティテュートとともに、寄稿者に対し、非常に必要

性の高いこの教材を作ることが可能にしたサポートを感謝します。

(寄稿者氏名部分省略)